

株式会社タカラトミー

会社紹介

2011年9月

東京証券取引所 証券コード:7867

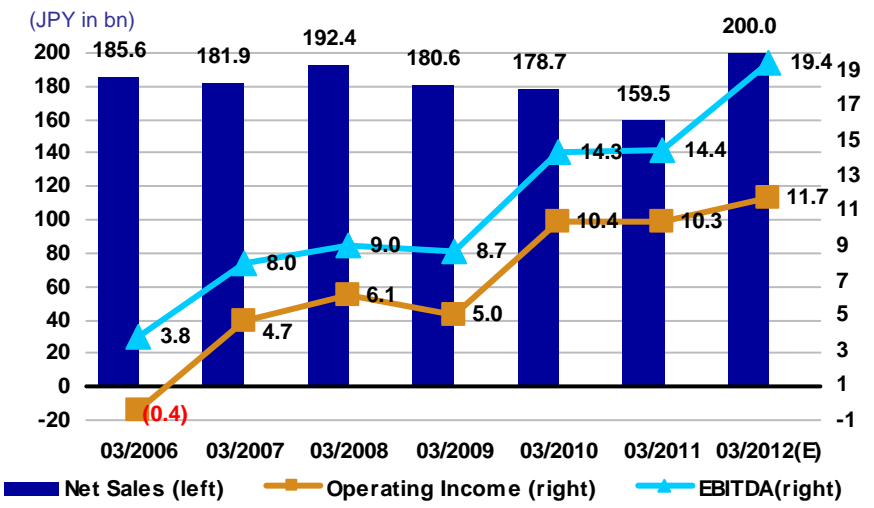
タカラトミーの概要



会社概要

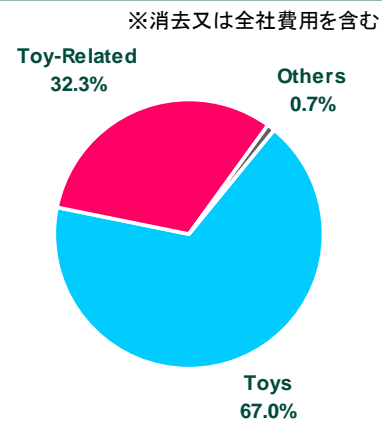
- 弊社は1924年に創業、玩具、雑貨、カードゲーム、乳幼児関連商品の企画、製造、販売を行う
- 弊社は大きく2つのセグメントで事業を営む：
 - 玩具事業：玩具の企画、開発および製造。多数の定番商品を有する日本のトップメーカー。小売店舗も営む
 - 玩具周辺事業：カプセル玩具、玩具菓子、アパレルなどの製造および販売。コンテンツの企画やマーケティングも行う
- トミー社がタカラ社と2006年に合併し、2009年度、2010年度ともに営業利益100億円超達成
- 東京証券取引所の1部に上場。2011年9月12日時点の時価総額は564億円
- 売上高1,594億円、EBITDA144億円(2011年3月期)
- 本社は東京、従業員約3,200名 (RC2含む)

収益の推移

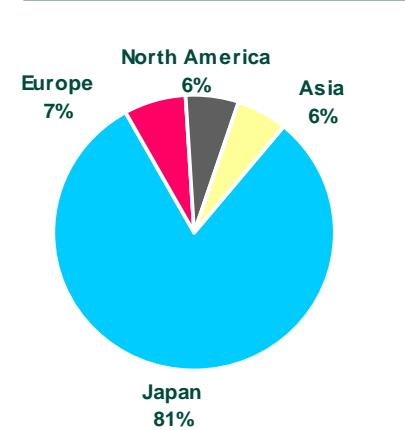


売上高の構成(2011年3月)

セグメント別



海外売上高



主力商品ブランド

TAKARA
TOMY

安定的な売上を計上する定番の玩具商品を多数有するとともに、ヒット商品を生み続けています

Transformers

- 130カ国以上で販売されているNo1のロボットシリーズ
- 2007年の映画公開時に、世界中で大ヒットを記録。2009年6月、2011年7月に映画続編が全世界でリリースされ、引き続き高い人気を維持。
- 米国のハスプロ社にライセンス提供

トランスフォーマー
TRANSFORMERS



Licca Doll Line

- 1967年に発売され日本で最も売れている人形キャラクター。累計出荷数5,000万体制



Tomica

- 日本のミニカーの70%の市場シェア
- 日本の7歳以下の男子の86.5%がトミカを保有
- 現在まで累計販売台数5億3,800万台以上。合計800種類以上を販売

※タカラトミー調べ



Pokémon

- 1996年に発売。世界中で最も成功したビデオゲームベースのメディア・フランチャイズのひとつ
- 玩具から家庭用品まで幅広い商品群



Plarail

- 実在する車両を主とする鉄道玩具。発売50年を超えるロングセラー。
- 機関車トーマスシリーズのライセンス所有。



Disney

- ディズニー社とは友好的なビジネスが続いています
- 日本等で玩具販売のライセンスあり



©Disney/Pixar



Beyblade

- 2008年にリバイバルし、日本で再びヒット。2010年にはハスプロ社と海外展開をスタートし、大ヒット中

©Takafumi Adachi, MFBBProject. ©2009 TOMY
TM & © Wizards of the Coast/Shogakukan/Mitsui-kids



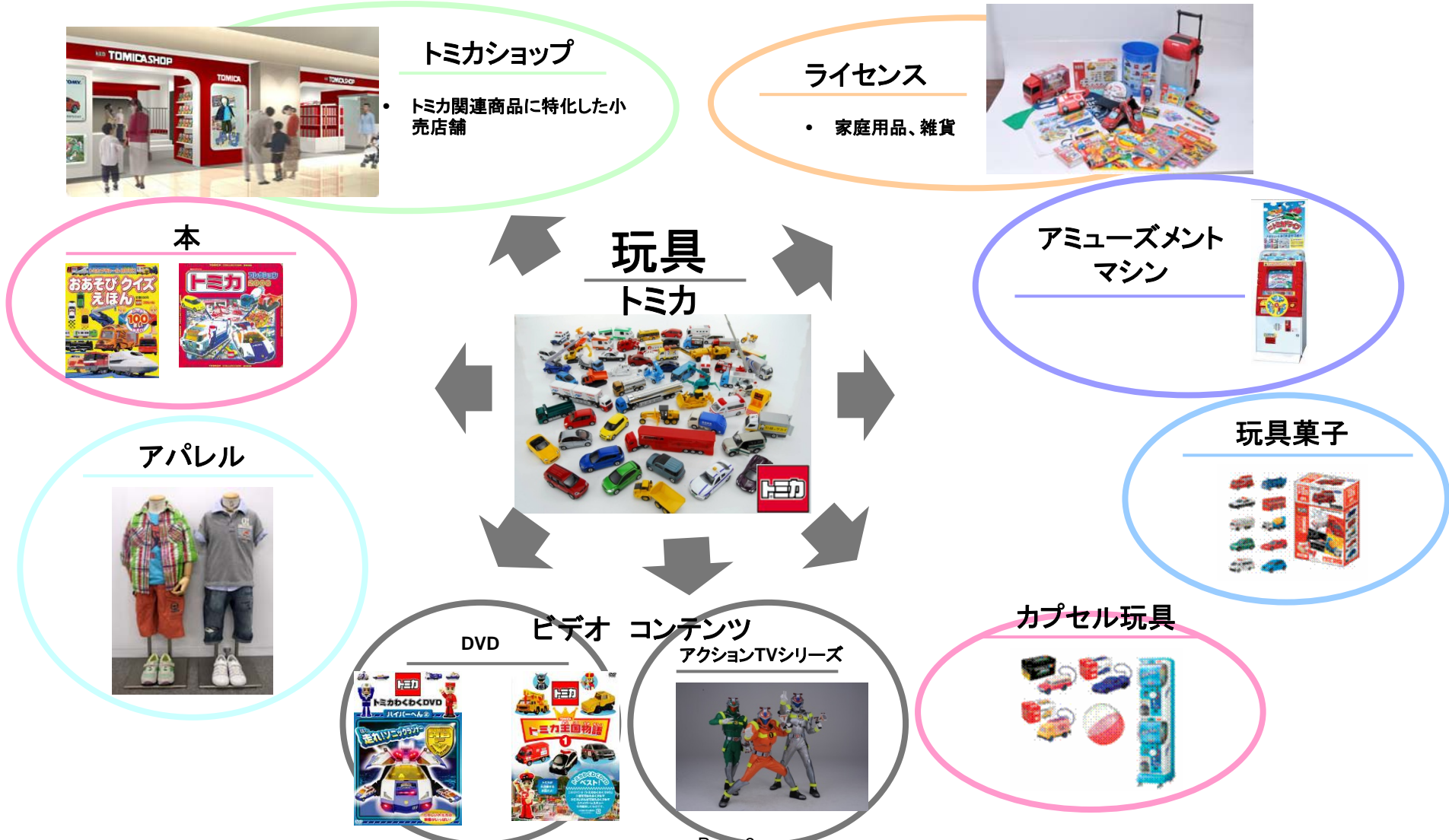
Duel Masters

- 2002年に開始した人気コミック、アニメシリーズのトレーディング・カードゲーム

玩具周辺事業の商品と戦略



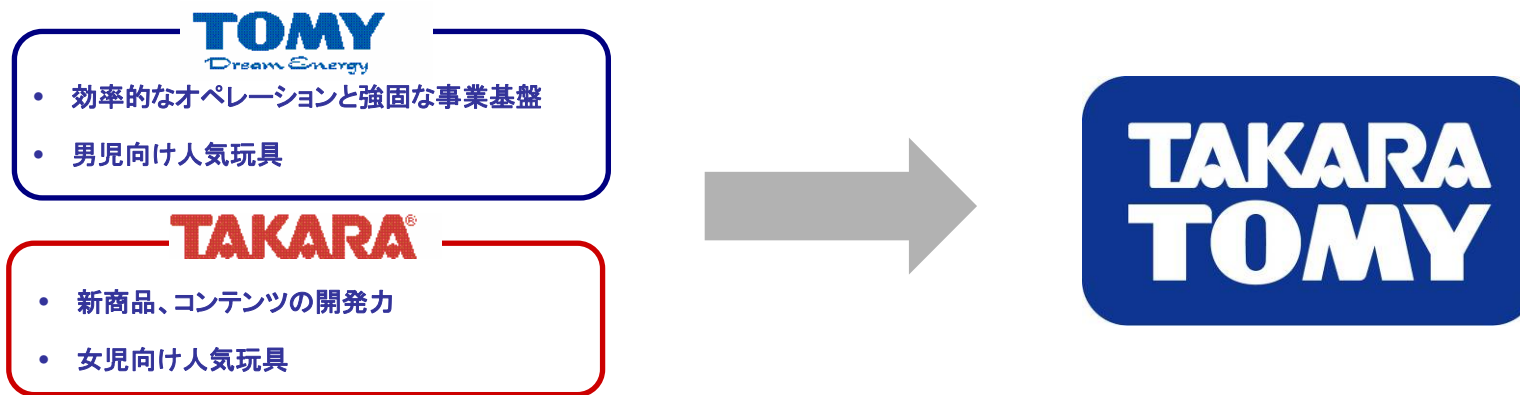
確立した人気ブランドを活用して、さまざまな周辺分野から収益を最大化します



トミーとタカラの合併 (2006年3月)

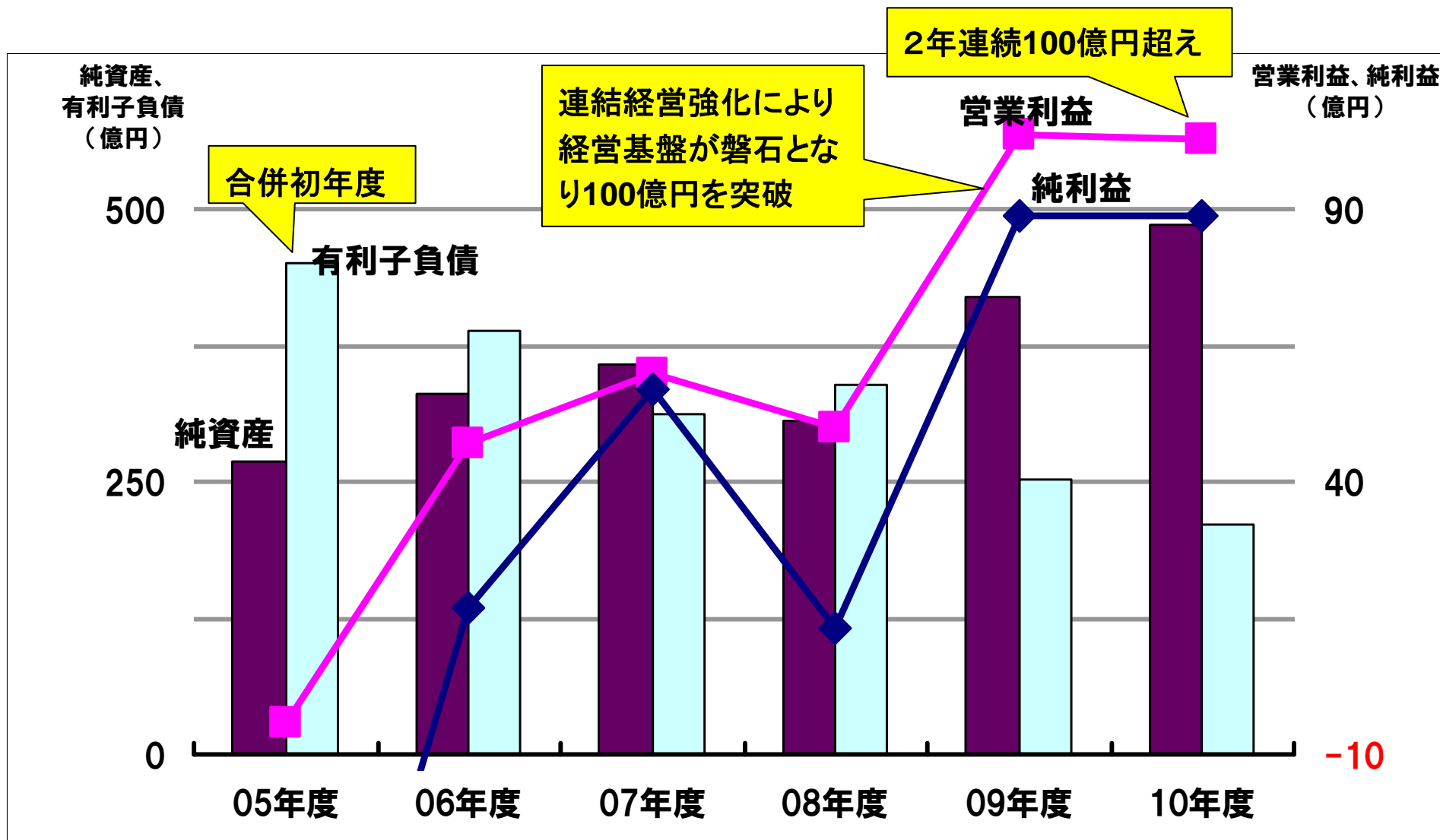


2006年3月にトミーとタカラは戦略的なメリットに鑑み合併しました



	Synergies Achieved	Post-merger Accomplishments
トミーとタカラの強みを統合	➔ グローバルへの成長に向けた強固なプラットフォームの確立	➔ コア事業である玩具事業の収益向上
人気ブランドを多数含む商品ポートフォリオ	➔ 幅広い顧客層へのアクセス	➔ 幅広い年齢、性別にアピールする商品群の開発
サプライチェーンマネジメントの効率化	➔ コストの削減	➔ 製造、販売、在庫管理に対するコントロールを強化
子会社の再編	➔ コアの玩具事業へのフォーカス	➔ 子会社を62社から24社に削減

タカトミー合併以降の業績の推移



RC2買収 (2011年4月) ~真のグローバルプレイヤーとなる為に~



当社から見たRC2の魅力

①北米での強固な自社販売網

②磐石な経営基盤

③堅実な商品ライン

④グローバルな人財・組織体制



RC2から見た当社の魅力

①企画開発力

②幅広い商品ブランドカ

③アジアでの販売網

④中国以外での生産体制

さらに、商品ラインや主力の販売地域など、ビジネスの重複が少ない

1 + 1 = 3 となるシナジーある買収

新たな経営目標

創業90周年に向けた目標（2015年3月期）

真のグローバルプレーヤーとして

- ・持続的な成長の実現
- ・売上30億ドル、営業利益3億ドルの達成
- ・海外売上高比率50%を目指す

中期経営計画

玩具事業の“改革”

- 定番事業の強化・拡大
- アジア地域の玩具事業拡大
- ボーイズ商品のグローバル化

RC2買収
グローバル展開の加速と
最大化

2011年3月期のタカラトミー

経験豊富な経営陣



取締役は5名の社外取締役を含んでおり、コーポレート・ガバナンスの充実にコミットしております

取締役会メンバー

富山 幹太郎
代表取締役社長
最高経営責任者



- ・ 玩具業界で26年以上の経験
- ・ トミーとタカラの合併を牽引
- ・ 1986年に社長就任直後に困難なリストラを実施
- ・ 1982年、英国のUniversity of Hull (Sociology) を卒業
- ・ トミー創設者(富山栄市郎)の孫であり、前トミー社長(富山長次郎)の息子

カート・ストルティング
取締役



- ・ 1994年にRC2 Corporation入社。
- ・ それまではアーサーアンダーセン勤務
- ・ CFOとして入社し、その後COO
- ・ 2003年にCEO就任
- ・ 2011年6月 タカラトミー取締役就任

佐藤慶太
取締役副社長
事業統括本部長
広報室長

奥秋四良
取締役副社長
連結戦略局長
マーケティング本部、
開発本部、
国内・アジア
営業本部担当

三浦 俊樹
常務取締役
財務最高責任者
連結管理本部長

高橋 勇
常務取締役
連結戦略局副局長
海外本部担当

真下 修
取締役
常務執行役員
事業統括本部副本部長
グローバル戦略本部長

柳澤 茂樹
取締役
常務執行役員
連結戦略局副局長

津坂 純
社外取締役
TPGキャピタル株式会社
日本代表

石田 昭夫
社外取締役
TPGキャピタル株式会社
日本副会長

宮城覚映
社外取締役
日本コークス工業株式会社
社外監査役

矢坂修
社外取締役
丸の内キャピタル株式会社
代表取締役社長

小島一洋
社外取締役
丸の内キャピタル株式会社
執行役員



TPGとの提携目的：2007年3月提携

- グローバルなベストプラクティスを導入
- オペレーションの改善
- 戦略的・財務的なサポートを提供
- TPGから2人の社外取締役((津坂純、石田昭夫)が就任

(出資の状況)

- 普通株式 4%保有
- 新株予約権付社債で123億円を投資(完全希薄化後で21%保有)
 - 2014年6月満期 49億円、転換価額613円
 - 2016年3月満期 70億円、転換価額616円
 - 2024年6月満期 4億円、転換価額613円

1. As of May, 2011

2. Assumes the conversion of all convertible bonds and calculated using the treasury method of accounting for in-the-money outstanding options.



MCAPとの提携目的: 2009年5月提携

- 三菱商事グループ、MUFGグループの事業ネットワークの活用
 - ✓コンテンツ事業の強化
 - ✓中国におけるビジネス展開
 - ✓連結経営の強化
- コーポレートガバナンスを更に向上
 - MCAPから2人の社外取締役（矢坂修、小島一洋）

(出資の状況)

- 普通株式 15%保有



G R O U P

企業理念

すべての「夢」の実現のために
わたしたちは、新しい遊びの価値を創造します。



本資料には、タカラトミーの現在の見通し、目標、計画、戦略など将来に関する記述が含まれておりますが、これらは現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、将来における当社の実際の業績または事業展開を確約したり、保障するものではありません。